

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271200679		
法人名	特定非営利活動法人ハッピーネス福祉会		
事業所名	グループホーム琴の海		
所在地	長崎県東彼杵郡東彼杵町蔵本郷884-1		
自己評価作成日	令和7年1月13日	評価結果市町村受理日	令和7年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和7年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

室内は、杉の木を使用した木造平屋作りの建物で、リビングからはみかん畑や山が見渡せる場所にあり、中庭は季節の木や花が植栽された明るく開放的な居室空間である。また、キッチンからリビングの様子が見渡せ、利用者とのコミュニケーションも図っている。定期的に避難訓練・災害訓練を実施し地域住民との連携体制ができ、安心安全な暮らしに努めている。ホームでは各種イベントを開催し、利用者は充実した豊かな生活を送られるように努めている。イベントの様子を写真に収め、ホーム内に掲示し、来所頂いた方にも観覧して頂いている。又、その時の様子を御家族に動画配信を行っている。職員は家族や地域の方がいつでも気軽に来て頂けるような雰囲気作りも心掛けている。職員は現状に満足することなく意欲的に資格取得や技術の向上に向けて努力している。日々、皆様の健康維持に努め、脳の活性化の為に学習療法(読み・書き・計算)を取り入れ、職員と利用者は毎日を生き活きと楽しく過ごしている。御家族がホームで看取りを望まれれば、利用者と家族が最期の時を共に過ごしていただけるように配慮し、御家族の精神的・肉体的な緩和ケアも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの近隣には、みかん畑や山が見渡せる自然豊かな場所にある。季節の木や花が植栽された明るく開放的な中庭で、入居者とのコミュニケーションを図りやすいキッチン配置である。今年度5月のそのぎ茶市に入居者も参加し、昔なじみの物産を見学し、新茶を試飲したり、入居者に声をかけてもらうなど交流を楽しんだ。週に1度は散歩に行けるようなスケジュールを組み、地域のボランティア(三つ葉の会)に協力を得て、日常的に地域住民と挨拶を交わすなどの交流を図っている。また、今年度はおはぎづくりや、誕生会、夏祭り、クリスマス会などの行事を行い、家族も参加してオカリナ演奏を楽しむなどの機会があった。ホームでは脳の活性化を目的とした学習療法(読み・書き・計算)を導入し、認知機能やコミュニケーション能力の維持・改善に繋げている。家族がホームで看取りを希望した場合は最期の時を一緒に過ごせるよう配慮し、エンゼルケアやグリーフケア等ニーズに応じた支援に取り組まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	琴の海の理念「共に喜び共に悲しむ」を理念に、利用者の能力に応じた活動(料理の下準備、洗濯干し・たたみ等)を一緒に行なっている。また、利用者家族の了解のもと、利用者の住まい周辺の方々の面会の受け入れや地域の人たちを夏祭りやクリスマス会などの行事に招いている。コロナウィルスが5類に移行後は感染予防を行いながら行事等を行っている。	「共に喜び、共に悲しむ」という理念を示し、ホーム内に掲示している。職員の入職時には理念を説明するようにしている。理念を大切にしながら入居者のできることを見つけ、料理の下準備、洗濯干し・たたみ等、職員も一緒にに関わりながら本人が生きがいを感じられるようサポートしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 令和7年1月13日	開放的な運営を行えるように、地域の方から野菜や果物を差し入れして頂くことがある。頂いた食材で苺ジャム、切り干し大根、シソジュースを地域のボランティアの方の手を借りて、利用者と一緒に作っている。又毎日交代で利用者と琴の海周辺を散歩に出掛け、地域の方との交流を図っている。	近隣の農家の方から新鮮な野菜や果物の差し入れがあったり、今年度5月にはそのぎ茶市に行き、入居者に声をかけてもらうなど交流を楽しんだ。地域のボランティア(三つ葉の会)の方と一緒にホーム周辺を散歩し、地域住民と挨拶を交わすなどの交流を図っている。地域の中学校よりお手玉やぬり絵を贈呈されたりこども園の園庭での交流等、入居者が地域社会の中で安心して生活できるよう支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、火災時の避難訓練、ホームでの行事への参加を通じて、ホームのあり方や認知症の方への支援方法などを理解して頂けるよう努めている。相談等があれば、その都度応じて不安の緩和に努めている。常時ホームにはスタッフが居るので、地域の方の急変時などに役立つように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、行事の報告、事業所内の問題点や今後のケアや行事の取り組みなどについて話し合っている。また、スタッフによる「介護職に就く前と就いた後の考えや気持ちの変化」について発表し、それから感じとられることをヒントにスタッフの育成につなげている。ちなみに、出席できないご家族に向けて、議事録や報告をLINEを使って送っている。	運営推進会議は施設長、管理者、行政職員、地域包括支援センター職員、家族代表、地域住民代表、地区長、民生委員、消防団団長より構成されている。家族にも会議の内容を知っていただくため、議事内容をLINEで送信している。議事録には出席委員からの質疑応答内容が記載されており、活発な意見交換がなされ、運営推進会議を通して地域社会との連携を深めながらサービス向上に活かすよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の利用状況の報告も毎月行なっている。また介護保険更新時にも連絡し確認を取り、地域包括支援センターや健康ほけん課と協力関係を築いている。	行政担当者が運営推進会議に参加されており、会議の場で助言を得たり、生活保護受給者が入居されている場合はホームでの様子を知らせるほか、介護保険更新時等には、確認を取りながら利用状況について報告を行っている。地域包括支援センターとも協力関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人権を守るため身体拘束をしない方針でサービスを行なっている。身体拘束が必要な場合は、本人・家族等への説明を行い同意を得ている。また、職員は施設内の身体拘束に関する研修会に参加し、身体拘束の理解を深めている。	訪問調査日現在、どうしても身体拘束が必要であると判断し、本人・家族への説明と同意の下で2名が身体拘束を実施している。その内容は、車いすからの滑落防止のために一時的に転落防止用ベルトを使用することと、夜間ベッドから滑落することもあり、ベッドに介助バーを設置して4点柵とするものである。当該事項は身体拘束適正化委員会や運営推進会議にも状況を報告されている。今後も本人の状態を見ながら、常態化しないよう検討を重ねていくことを提案した。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外で虐待防止の学習を行っている。施設内研修で年2回虐待防止の学習を行っている。また毎月のカンファレンスで虐待や不適切なケアが行われていないか話し合っている。や利用者からつねられたり、叩かれたりする事がある時は、職員同士で相談し、悩みを共有している。そして、対応方法をみんなで話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンスや勉強会を行い制度を理解している。施設内研修に職員は参加し、制度を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、法改正時の際は家族に説明し、了解して頂けるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	誕生会・夏祭り・クリスマス会等の行事に参加された時に、家族の方の意見を聞き、カンファレンスを開き、職員一同で内容を検討し反映させている。また家族が来所された折りにもお話を聞き意見を反映させている。現在はご家族とLINE交換をしているので、相談や要望がある時はLINEで気軽に受けている。	今年度は誕生会、夏祭り、クリスマス会などの行事を行い、家族も参加してオカリナ演奏を楽しむなどの機会があった。そのようなホームの催しに参加された際にも家族の要望等を聞いたり、面会に訪れた際にも話をお伺いし、意見を反映している。家族とLINE交換を行っており、相談や要望がある際にLINEでも受け付けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勤務の希望や人員等、職員の意見や提案を聞き反映させている。月1回のカンファレンスで行事や誕生会のイベントについて話し合いを行い、意見を反映させている。お互いに意見を言い合える関係を築き利用者のサービス向上に繋げている。年2回グループホーム交流会や経営者会議での職員の情報交換を行っている。	月1回1時間ほどのカンファレンスでは、行事や誕生会のイベントについて話し合い、職員の意見を反映している。年2回、グループホーム交流会を開催し、職員間の情報交換及び経営者同士の情報交換を行い、運営に役立てている。ハラスメントに関する研修を年間研修計画に組み入れており、職員同士がお互いに意見を言い合える関係を築き、より良いサービス提供に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務年数や経験を活かした役割を持って仕事をしている。キャリアパス規程を設けている。職員の休憩時間の確保に努め、働きやすい環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外の研修も受講してもらっている。また施設では具体的なケースを用いて考える能力を養っている。係の役割分担を行い、責任のある役を経験年数や能力に合わせて与え、更なる進歩を促している。経験年数から資格取得を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和6年度は2回、地域のグループホームとの交流会を行い、専門職同士が集まり意見交換など行っている。事前に話し合うテーマを設定し、その事について各施設意見を述べている。また、その時知った良い所はホームに取り組んでいる。令和7年度、グループホーム交流会は年2回(4月、10月)の開催となる。(スタッフの人員不足など新たな課題が生じた場合には運営者が集り課題に取り組んでいる)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にケアマネ、家族から利用者の情報提供を受け事前に職員間で情報を共有している。入所後、利用者の傍に寄り添い、または見守り、利用者の理解に努めている。また、慣れ親しんだ家具の使用や携帯電話の所持の許可をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスに関して家族からの要望を聞き、可能な限り応えている。希望があれば、家族の寝泊り、病院受診を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の身体状況や精神状況を考慮して、入居受け入れを判断している。事前情報、入所後の状況からアセスメントし、利用者の日常生活がスムーズにいくよう支援に努めている。入所後、特に1週間は利用者の傍に寄り添い、出来ること、出来ないことを把握し職員間で情報を共有し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日中は出来るだけリビングで過ごして頂き、テレビを観たり、新聞を見たりしてもらっている。利用者が生活の主体としていられるように、食器を拭き、タオルたたみ、新聞・チリ紙折りを一緒に行うようにしている。レクリエーションを共にし、喜び楽しみを共有している。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の誕生日会は家族にも参加していただき職員と共に祝うことを心掛けている。イベントなどがあった時には、その時の様子を動画に撮り、家族に送っている。また、毎月生活記録の報告の報告書を家族に送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域で開催される毎年恒例のそのぎ茶市(5月)は、令和5年度は悪天候のため見学できなかったが、令和6年度は利用者の家族と一緒に参加することができ、昔なじみの物産を見学したり、新茶を試飲したりできた。敬老会やクリスマス会に来所される方々との交流は長年続いている。	今年度5月に開催されたそのぎ茶市に参加し、昔なじみの物産を見学し、新茶を試飲したり、入居者に声をかけてもらうなど、交流を楽しんだ。ホームでの敬老会やクリスマス会等の催しには地域の方を招待し、長年にわたり交流を続けている。家族に向けた年賀状を職員が代筆するなど関係継続を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	感情の変化を観察し、利用者同士が(新利用 者には特に注意し)良い関係を保てるよう、食 事時の位置・テレビを観る時の位置等気を配 り支援に努めている。利用者同士の相性など も考慮し、席の配置をしている。喧嘩等の時 は介入し、悪化防止に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の方からのホーム来所や、ホーム在所 時の写真希望などの依頼が多かった。(遺影 に使用するため)現在の状況を尋ねて必要に 応じては相談や支援に努め、退所後もホーム にも来所しやすいよう関係を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	日頃の会話の中で、外出や外泊等の要望や 思いに対してすぐに対応している。電話を希 望される方は、対応し思いを伝えることがで きている。家族からの飲食の差し入れについ ては制限していないが、毎日居室内の状況は 把握して本人の確認のもと飲食物を預かるこ ともある。	介護度が高い入居者がおり、表情、ジェス チャー、体の動きなどの非言語的な手段も試み ながら支援している。表情や体の動きを注意深く観 察し、日々のケアの中で気づいたことや感じたこと はタブレットに記録し、職員全体で共有を図って いる。日常会話の中で外出や外泊の希望があれ ば、家族等にも協力を仰ぎながら対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入所時の利用者の状態を観察したり、家族か ら今までの生活状況の把握に努めている。介 護ケアプラン及びケース記録・回想録等、ま た、利用者との会話の中から、今迄の暮らし を話されることがあり、参考にしている、		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日常の様子を日々のケース記録に記入し、ま たその時に職員がどう対応しているか状態の 把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、医療機関の意見を合わせた介護計画書を作成している。カンファレンスで利用者の担当者が心身状態、日常生活状態等を話し合い、介護計画に反映させている。問題がある場合にはミニカンファレンスを行い、現状に応じた介護計画を作成している。	入居者本人、家族、医療機関、居宅介護支援事業所等から、心身の状態、生活習慣、希望などを情報収集している。入居者の心身状態、日常生活動作、認知機能などを専門的な視点からアセスメントしている。担当職員が集まり、心身状態や日常生活の状態、課題などを話し合い、アセスメント結果を共有し、介護計画の方向性を検討し、一人ひとりの状況に合わせた個別目標を設定している。定期的に状態を評価し、必要があれば計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は日々の様子をケース記録に記入し、状態の変化等あればホワイトボードに変更等書き、スタッフ間で情報を共有している。状態の変化があればホーム長やスタッフ間で検討を行い、必要があれば家族に連絡を入れる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	重度化された状態の方でも、医療との連携により受け入れ可能である。家族も共に支える姿勢で取り組んでいる。病院受診が必要と判断した場合、家族への連絡後、看護師は病院への支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和5年、6年のクリスマス会に於いてオカリナ演奏をボランティアの方でして頂いた。令和5年度敬老会では外部からボランティアの楽器の演奏者を招き、音楽会を開催した(令和6年度はコロナ感染のため中止)。ボランティア団体(三つ葉の会)との交流を月1回計画している。計画通り実施できない時もあったが、地域の方のサポートして頂いた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を聞き、担当医を決めている。月1回の往診、平成30年度から歯科往診を利用者は月1回、義歯の調整、歯肉のマッサージなどの口腔衛生を受けられている。事前に連絡し往診時スムーズにいくよう医療側と連携をとっている。また急を要する時は受診もしくは往診依頼をその状態に応じて行っている。	月1回の往診に加え、歯科往診も月1回行っている。施設長が看護師であり、円滑な受診や医師の指示による医療的措置に対応している。歯科衛生士の資格を持つ職員が在籍しており、歯科受診の際に同行し、口腔内の状態や治療内容について、歯科医師との情報共有や連携を行っている。緊急時等、入居者の状態に応じて協力医の受診または往診依頼を行い、連携を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は介護職員からの情報、観察等により健康管理を行っている。状態観察により主治医の診察が必要な時は病院受診し、治療を受けて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要となった場合は家族と連絡し、医師の状態説明を聞いて頂く。入院の準備はホームで行い、入院生活に支障がないよう配慮している。ホームでの情報提供を行い、特に認知症の具体的な言動を本人及び病院関係者が困らないように説明している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、利用者の状態が悪くなった場合、重度化対応、看取り指針等の説明を行っている。家族の希望を受けホームでは現在までに20名看取りを行った。コロナ感染の状況にあったが、感染防止に努めて面会制限は行わず、利用者との最期を共に過ごすことができればるように配慮した。	入居時に「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」を用いて入居者・家族に病状が変化した場合の対応や、重度化した場合の介護方針について説明している。24時間対応の協力医と連携し、これまでに20名の方をホームで看取った。コロナ感染状況下においても、感染防止に努めながら最期を家族と共に過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故が発生した場合は、ホーム長に連絡し、利用者を安全・安楽な体位にし、初期対応を行うようにしている。職員は落ち着いて対処できる様、心肺蘇生法や緊急時の対応を研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	毎日の火災チェック表の確認を行い、又火災を想定して、年2回地域の方にも参加して頂き避難訓練を実施している。災害時対応マニュアルや防災マップ、避難場所を確認し危険区域を把握して日々防災意識を持っている。水害に対しても町の災害対策に准じて毎年1回実施している。また災害時には消防団と速やかに連絡できるようにしている。	年2回避難訓練を計画し、10月に総合訓練、3月に部分訓練を実施している。日々の火災予防チェックのほか、災害時対応マニュアルや防災マップを活用し、日頃から防災意識を持って取り組んでいる点は評価できる。運営推進会議に地域の消防団員が参加されており連携体制の構築に繋げている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬を持って傾聴し、言葉掛けや対応を行っている。また職員間でも勉強会をして言葉遣いや態度について意識し実践している。	丁寧すぎる言葉遣いは避け、目上の方に対して失礼のない言葉遣いに対応を心がけている。スピーチロックへの気づきはカンファレンスで挙げ、職員の意識づけを図っている。職員間で定期的に勉強会を開催し、言葉遣いや態度について意識を高めている。職員は個人情報保護に関する誓約を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	遠慮等から御自分の思いを伝えられない方、耳の遠い方等、表情や態度などを見ながら、声掛け・ジェスチャーなど行っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	寝られる時、休まれる時、起きられる時、本人の状態や時間を見て尋ねながら、一人ひとりのペースを大切にしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みで服を選んで頂いたり、本人や家族の希望があればカットをして、その方らしい身だしなみやおしゃれを楽しんで頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事献立は栄養士が一人ひとりの好みを考慮し、栄養バランスを考え季節の物を取り入れた献立を作成している。個々人に合った食器やスプーン類の素材や形にも配慮している。また一人ひとりの咀嚼、嚥下機能、歯の状態を考え食べやすい形態にし楽しく食事ができるように見た目も考え、摂取して頂くように努めている。料理の下ごしらえや食器拭き等の出来ることはして頂いている。誕生日(祝い膳)、節分(恵方巻)、正月(おせち)などの行事食等食べて楽しむことを支援している。	管理者でもある栄養士が入居者の好みを考慮し、栄養バランスを考えた献立を作成している。日勤職員による手作りの料理が提供されている。家族からの差し入れや旬の食材を取り入れ、季節を感じられる食事を提供している。入居者一人ひとりの咀嚼・嚥下機能、歯の状態を考慮し、食べやすい形態(刻み食、ペースト食など)にしている。入居者のリクエストに応じ、だご汁や饅頭、混ぜご飯など様々な手料理を提供している。料理の下ごしらえや食器拭きなど、できることは職員と一緒にやっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重の増減、利用者の一般状態や体温上昇、外出後等の状況を考慮し食べる量、水分量など考えて支援している。また、必要に応じて筋力や栄養アップのためプロテイン、メイバランス、アイソカルゼリー等を通常の食事に加えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医、歯科衛生士の指導の下、毎食後は舌ブラシ、スポンジ、歯ブラシ、歯間ブラシ、口腔ケアウェットシートを使用し口腔ケアを行っている。うがいにはお茶を使用し、口の殺菌・口臭予防に努めている。また歯磨きに人体に害がないものを使用し、毎夜洗浄剤（歯科用義歯洗浄剤：デンチャークリーナー）で除菌している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレに誘導している。また、見守りできる環境を作っている。失敗された時は速やかに衣服を交換している。必要に応じて居室にポータブルトイレを設置し排泄の自立支援に努めている。リハビリパンツや紙おむつに変更する時は十分検討してから行う。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中は共用トイレに誘導している。夜間のみポータブルトイレを使用する方もいる。トイレでの自立を促し、下肢筋力の維持・向上を図るとともにトイレで便座に座れるよう起立訓練を行っている。失敗した場合は、速やかに衣服を交換し、清潔な状態を保っている。排泄状況を記録し、職員全体で共有し適切な排泄ケアに繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な食品、乳製品を毎日の献立に取り入れている。現在内服されている薬の副作用による便秘がある場合、薬の見直しを行い、状態の観察に努めた。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回以上入って頂き、その時の利用者の体調に合わせて入浴時間や、携わる職員数を変えて安全に楽しく入って頂けるようにしている。入浴日以外にも、病院受診や誕生会前、排泄等による汚染があれば臨機応変に対応している。体調不良等で入浴できない場合は清拭を行っている。	週2回以上の入浴とし、入居者のこだわりや体調に合わせて、入浴時間や携わる職員数を調整し、安全かつ楽しい入浴を提供している。寝たきりの入居者の入浴介助は、身体的な負担が大きいため、2名の職員で対応し、入浴中の転倒や事故のリスク軽減に繋げている。	脱衣室にハロゲンヒーターを設置し、冬場の寒さ対策を講じているが、ヒートショック防止のため適切に温度管理を行えるよう脱衣室にも温度計を設置し、温度の可視化を図ることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は利用者の身体状況に応じてベッドやソファで休んで頂いている。テレビを見て過ごされる方には、座り心地、安楽を配慮している。睡眠に不安のある利用者で、眠剤服用の方は3名おられる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者全員が薬を服用されている。手にのせたり、口の中まで入れたり、トロミをつけて利用者に合わせている。薬の目的・作用・副作用を把握し経過観察に努め、状況に変化があった時には看護師や主治医に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来る事を活かしたお手伝いをして頂いている。気分転換の為、週課表に沿ったレクリエーションやホーム周辺の散歩を楽しんで頂いている。また、年に1度は花見・茶市・バイキング・ハイキングにも出掛けしている。ご要望がある方(食べたいもの:芋・みかん・おはぎ・混ぜ御飯等)は、その要望を叶えられるよう取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週1度は散歩に行けるようなスケジュールを組み実施している。家族の希望があれば外出、外泊もされている。その他、年間行事の中の花見、そのぎ茶市、バイキング・ハイキングにも出掛けしている。	週の計画を立て、週に1度は散歩に行けるようなスケジュールを組み、実施している。散歩を通じて季節の移り変わりを感じたり、気分転換をしたりする良い機会となっている。正月に家族のもとへ外泊するなど家族との時間や思い出作りを大切にしている。花見、そのぎ茶市、外食など、年間を通して様々な行事を企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金を所持している方はいない。職員に欲しいものを頼み、買ってくることで欲求を満たしている。お金がないことへの不安に対して、繰越の通帳を持つことで不安の解消につながる利用と家族もいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話に出る事ができる利用者は話をしたり、職員が手伝って利用者から電話する事もある。また家族に、時候の挨拶等ハガキで出せるようにも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングでは、中庭の花々・生け花・飾り付けで季節を感じて頂いたり、音楽を流す事でリラックス出来る空間作りをしている。施設内は、生活空間の妨げになるような物を置かない事で利用者が安全で自立した生活が送られるように心掛けている。温湿計を設置することで意識して確認を行い、快適な温湿に努めている。	ホーム内の清掃はパート職員が午前中に実施しており、入居者が快適に過ごせるよう、清潔保持に取り組んでいる。ホームでは行事の写真や誕生会の写真等を共有空間に掲示し、入居者の様子を伝えている。また、事務所にはこれまで入居されていた方の写真や似顔絵も掲示している。リビングでは入居者が脳トレや嚙下体操など生活の質の向上を図っている。整理整頓された共用空間で、転倒事故の防止にも配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓の座席やソファの位置・高さ等は、利用者がくつろげるように配慮し工夫している。問題がある場合、ミニカンファレンスを開き即時に改善出来るようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた愛着のある衣服・布団類を使用されている。毎年本人の誕生会の写真をリビングや廊下に貼り、家族と仲良く過ごされている状況を見ていただいている。	居室のエアコンフィルターは担当者が月に1回清掃している。位牌やマリア像など本人にとって大切なものやなじみが深いものなどの持ち込みができ、信仰心にも配慮するようにしている。誕生会の写真や家族との写真も掲示されている。ベッドや家具類は入居者個々に介護の動線に配慮した配置で、入居者が快適に生活できるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状況に合わせて、椅子やベッドの種類や高さ、ポータブルトイレの位置や蓋を外す等を考えて自立した生活が送られるように工夫している。利用者の状態に変化があった時にはその都度検討している。居室入り口に名札や似顔絵を貼り、利用者や家族がわかるようにしている。		